

## 陽光を取り戻したヒノキ林



「隣の境には杉を(と)ころ(と)ころ植えてるから、探してみても、こっちは一回間伐してるから太いけど、こっちは手入れしてないから細いはず」山主さんと話しているというヒントをもらえます。

現在杉の杜学舎では、美濃市藤生(わらび)地区で間伐を進めています。そのためにはそこが誰の山で隣の境界がどこが分からないと話が進みません。そこで一面のヒノキ林の中での境界探しからスタートとなるわけですが、山主さんのなかには何十年か前の植林以来山に入ったことがない、相續で自分の名義になっただけ等、自分の山の場所が分からない人がいます。実際、所有地・境界が不明な森林所有者の増加

が問題となっていて、私も学校ではそう教えられませんでした。しかし、冒頭の会話のように、自分の山だけでなく周辺事情もよくご存知の方がいます。そんな方からのヒントとコンパス、目印用のテープ、森林基本図(地図に境界が描かれたもの、左図参照)を手に山を歩き回っています。

歩いてみると色々な情報が見つかり、境界線を引いていくことができます。一番分かりやすいのは杭で一定間隔で並んでいると安心します。山のなかには結構杭があり、自分の山を大事に守ろうとしている山主さんが多いと感じられます。一方で、離れたところに一本だけ孤立した杭を見つければ、これはどういう意味の杭なのか、地図上のどこの境界を示しているものなのか不明というものもあります。その杭から別の境界線が延びていくのでしょうか取りあえず次にまわすことにして、先に進みます。

次は小さな地形、一枚の斜面のようには見えても微妙な尾根、谷があります。尾根でヒノキの中に一本だけ大きめの杉があるとき、境界でしょう。杉の代わりに



森林所有区分(森林基本図)  
「ぎふふおれナビ」(岐阜県HP)

# そまふ



新しき山人たちの羅針盤

## 第 9 号

NPO 法人 杉の杜学舎

〒501-3781 美濃市片知 1109-4  
森づくり片知支援センター内

TEL & FAX 0575-37-2115

URL: <http://www.somanomori.or.jp/>  
e-mail: [info@somanomori.or.jp](mailto:info@somanomori.or.jp)

(発行日: 平成 18 年 5 月 8 日)



## 当世山林所有状況

間伐営業の中から

杉の杜学舎 小泉信太郎

松の場合は、松枯れで倒木が転がっているなんてこともあります。林の様子の違いでは、間伐の有無による太さや本数の違い、植林後の経過年数による高さの違い等から境界を決めていくことができます。間伐を行っているところでは、切り株があったり、作業範囲を囲んだビニルテープが残っていたりして、決め手という場合もあります。(十数年テープが残っているのは善し悪しと思いますが。) 見つかった境界線をつなげて一周させることができれば境界探しは終了です。周囲の山の様子とあわせて状況を山主に話し、納得いただければ境界確定となり、測量、調査、間伐と進めていくことになります。

山を歩いて思うことは、所有面積の小ささです。前頁の森林基本図は一例ですが、細切れになっています。数字ひとつが1区画、中には2区画、3区画と持つ方もいますが、広くても1ヘクタール前後、普通は0.5ヘクタールほど、山からの収益などもと当てにできず、材木価格の下がった現状では山への関心がぐっと下がってしまうのも仕方がないという状況です。関心の低さは、雪害で折れたり曲がったりした木や、つる植物に巻きつかれて絞められている木が放置されていることにも現れています。このまま間伐せず、放置状態を続けていくと本当に材木としての価値を失ってしまいます。

今なら詳しい山主さんからの情報があれば何とか境界は分かるので、今後も間伐を進め、最初の写真にあるような山に変えて行きたいと考えています。

## タケノコの生みぐれ指数100%コラム

先日、昨年竹林整備をした美濃市内の以安寺山に行ってきました。すると、出てきました、ニョッキリとタケノコが。早速掘った所、わずか10分程で小ぶりながら6本採れました。まだまだ探せば相当の数採れそうでしたが、この時はちよつとした合間に行っただけだったので、これだけに止めました。この後、私の食生活はしばらくタケノコ料理を楽しむ日々となったのでした。

タケノコや山菜と、里や山の春の恵みを楽しむ時期がやってきました。実はこのタケノコは、昨年の整備で雑木林やヒノキ林のエリアに侵入した竹を伐採した場所で掘ったものです。整備する前の以安寺山は長年人の手



が入らず、樹木も竹林も荒れ放題になっていました。前号の「そまっぶ」でも活動報告したように昨年からは以安寺山の整備に着手し、竹林は昨年度中に整備しました。整備後は見違えるような景観となりましたが、問題はこれからです。せっかく一端駆逐した侵入竹も、放っておくと後から後からまた新たに竹が生えてきて竹林と化すでしょう。竹は地上部を切っても、地下茎が生きていますので、次の年にまた生えてくるわけです。そう、竹を完全に駆逐する為には数年は切り続けなければならないのです。いやむしろ切るのは労力が必要なので、大きくなる前、つまりタケノコの時に採取してしまえば、食べることもできるし、一石二鳥というわけです。タケノコもスーパーなどで買おうと、何百円もしますし、タケノコ掘りをすれば、家計も大助かりですよ。

こう書いてみると、竹が悪者のように思われたいと思いますが、大昔から日本人にとって竹は生活に欠かせないものでした。食材として、生活道具の材料として、建材として、様々に活用されてきたのです。また、竹林は地盤の崩壊防止や、洪水の緩衝作用等防災機能を持っています。しかし、国産竹も木材と似た状況で、中国から安いものが入ってくるとか、素材的にはプラスチックや金属に取って代わられている等の

要因により利用度が激減しています。国内で使われている竹の内、国産のシェアは10%にも満たないそうです。このような状況により竹林も手入れ不足になり、荒れ放題の竹林が増えていきます。また、竹は一日に1m以上伸びたという記録があり、その伸長量は驚異的です。さらに一年でほぼ生長分伸びきり、太りきってしまいます。竹はこの様な特徴のため、樹木の林に竹が生え出すと、やがて竹の方が上層木となり、他の木々が負けてしまい竹林に遷移していくという悪循環が生まれるわけです。これが里山でよく問題になっていることは、みなさんも聞いたことがあるのではないのでしょうか。

しかし、先に書いたように竹には様々な利用方法があります。また、先日あるテレビ番組で竹を使ったビジネスが取り上げられていました。一本の竹を無駄なく使うということで、皮は抗菌剤に、根元部分は建材に、残りは加工して吸臭剤に、さらに繊維を断熱材に、加工の過程で出る液体を肥料にと余す所なく竹という素材を製品として生かしていることが紹介されています。竹林の再生と共に地域産業の創出も生み出せるという効果も期待できます。

地球温暖化が懸念され、持続可能な循環型社会の形成が叫ばれて久しい昨今、国内の竹林も今一度見直す必要があるのではないのでしょうか。

美濃市内をはじめ、車で走っていると、あちこちで荒れた竹林を見かけます。これらも整備すれば資源に変わるわけです。まあ、とりあえずタケノコでも掘って、楽しみながら、竹林整備といきましょう。

(山中 亘)



荒れた竹林も手入れすれば、ご覧のとおり！



## バランス感覚

10時間の釣行で魚を見ることなく一日が終わることも多いのが現在の溪流釣りです。たとえ出会えたとしても尺上である、あるいは在来種であることは望むべくもありません。これは釣人に対して放流で維持されている魚数「需要と供給」の問題であり、砂防ダムや水質悪化による川環境の変化が魚の生息圏を狭くした結果のように思います。フライフィッシングを始めてまもなく「ノーキル(不殺生)」になじみ、釣りというより「川歩き」を楽しむのが私のスタイルですが、一方で行政機関をはじめ漁協や釣人が現

状に即したバランス感覚をもって新しいシステム構築すべき時ではないかとも思っています。

山も同じ図式があてはまると思います。特に奥山の人工林の荒廃は自然のサイクルに任せるべきではなく人の手を積極的に入れるべき。しかし私自身そうだったように多くの人は「源流域ほど魚が多い」とか「奥山ほど自然が豊か」と考えている傾向にあります。むしろ逆であるとさえいえる現実を釣りを通して経験し、「山や川のあるべき姿」を求めてきた結論はやはり「魚がいる川」です。それは水生昆虫を育む河畔林がありアマゴが自然再生できる川、つまり生物多様性が維持でき完全にバランスのとれた環境そのものです。森林づくりや環境あるいは教育に、釣り・レジャー・観光等と同じカテゴリーとして加える、あるいは川も山も時代に置き去りにされた地域そのもの、ならば地域おこしの視点でアプローチしていくのもひとつの方向性ではないか、魚に木に新たな価値を与えることで川や山の再生が見えてくる気がするのですが。

地元の片知川で出会った魚や水や木や人や……のこと、次回から「片知溪谷レポート」としてお伝えします。

(栃川 孝弘)



片知溪谷



【活動報告】2006年(冬〜春)

●小倉山整備事業

美濃市の小倉公園の森林景観整備を手がけて3年目になります。今年は「陽だまり広場」から展望台にかけての森林と歩道を整備しました。美濃市の主催する「みの森林塾」の実習現場としても活用しました。今年度も引き続き整備をしていく予定です。



整備された、遊歩道

●以安寺山整備事業

美濃市の以安寺山森林景観形成整備工事の1年目の作業が完成しました。1年目は以安寺山の東斜面のヒノキ林と竹林の整備と、尾根部の歩道開設をしました。

2年目となる今年度は、西側斜面の森林整備

と周回歩道の開設を実施する予定です。

●間伐事業

昨春秋より美濃市の片知(かたじ)・大矢田(おやだ)・蕨生(わらび)地区を中心に約16ヘクタールの間伐を完了しました。今年度は蕨生地



整備されたヒノキ林



所有者に境界の確認をしてもらうことも、大事な仕事です。

区を間伐推進の重点地区として森林所有者に間伐の呼びかけを行い、間伐遅れの人工林を健全な状態に再生していく作業を行っていきます。

●全国植樹祭サテライト会場整備

5月21日に開催される全国植樹祭の岐阜サテライト会場(山火事跡地)の歩道整備を実施しました。



間伐材を利用して、植樹会場の歩道に階段を設置しました。

(鈴木 章)

【編集後記】 「バランス感覚」は、釣りを通して山や川を見つめる記事です。今後も「片知渓谷レポート」で、面白い釣りの話などを伝えますのでご期待ください。さあ、春本番。釣竿をもって山を歩くのもいいかも。

(小泉)